

2. 私たちの住む街の素晴らしさ

2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み^{めぐ}

六甲山地は、豊かな自然に恵まれた緑の森で、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、神戸が開港（慶応3年：1868年）したころは、白い岩はだばかり見え、荒れ果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山地は、その後、人々の手によって、木々が1本1本植えられ、100年以上の歳月^{さいげつ}をかけて再生されたものです。今、私たちの目に映る山なみは、かけがえのない財産です。

木々の種類や生きものも非常に豊富です。古くから六甲山地を通る道も多く、今ではこうした道が登山道^{さんざく}や散策路として市民に利用されています。こうした道を歩くと、四季折々の植物^{おりおり}などを楽しめます。



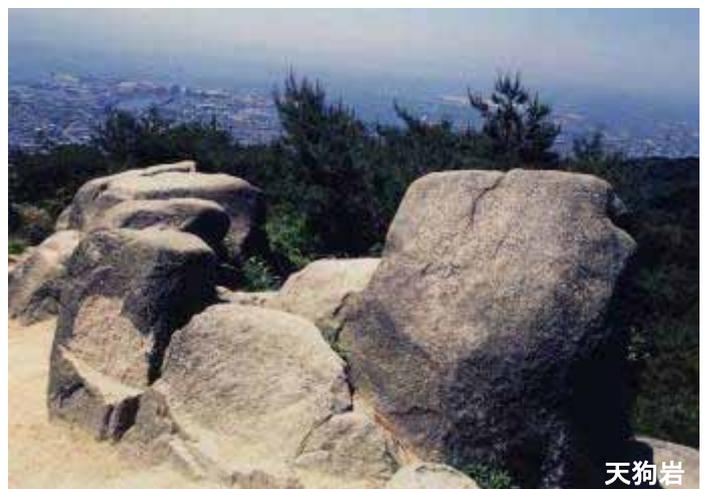
摩耶山



六甲山カンツリーハウス



六甲山牧場



天狗岩

2-1-1. 六甲山地の緑



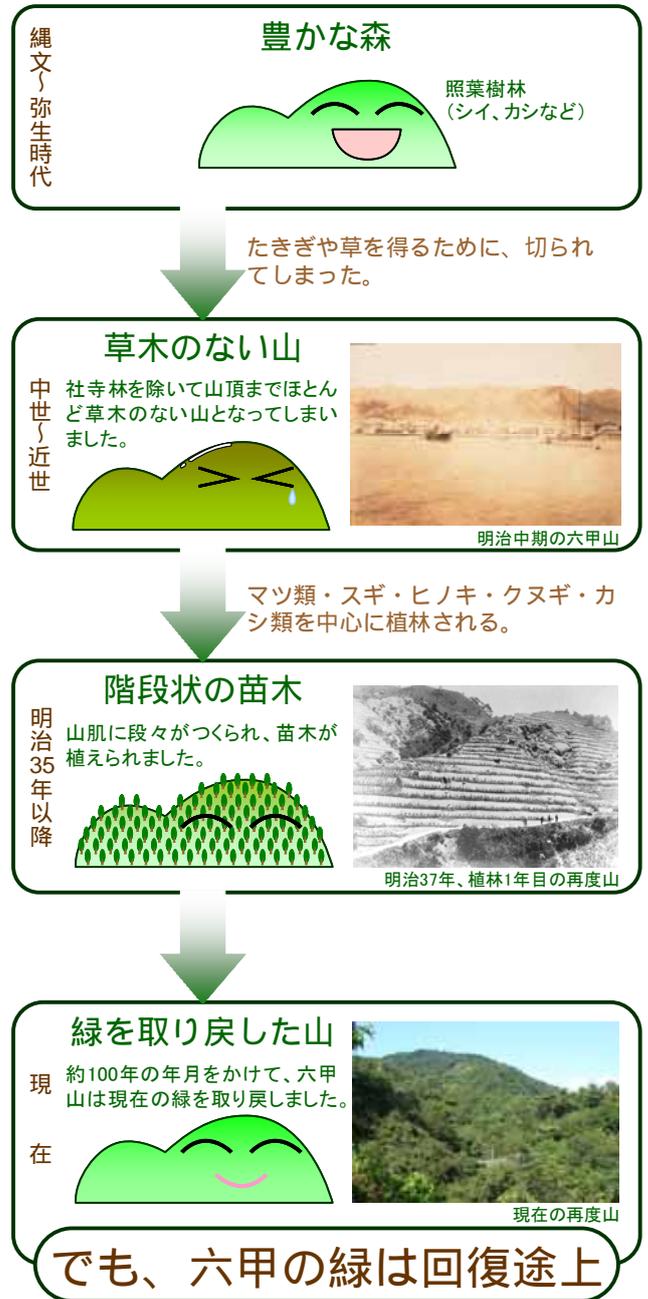
縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

都賀川流域周辺では、貴重な植物として、モウゼンゴケ、ショウジョウバカマ、ヤマトキソウなどが確認されています。その他にも、六甲山山頂付近ではブナ群落が、摩耶山ではスダジイの集団が貴重な植物として見られます。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地の緑の歴史



六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。



アリマウマノスズクサの名付け親は、^{まきの とみ た ろ う は く し}牧野富太郎博士なんだよ！

アリマウマノスズクサの名前は、日本の植物分類学^{ぶんるいがく}の父・牧野富太郎博士が、昭和12年（1937年）に馬の形に似た花と葉を神戸市北区の有馬温泉^{ありま}近くで発見し、命名されました。

この植物は、5月～6月に花が咲^さき、神戸付近では、六甲山にある六甲高山植物園などで見ることができます。



アリマウマノスズクサ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)



六甲の名花「幻の花」シチダンカ^{まぼろし}って知ってる？

シチダンカは「幻の花」「幻のアジサイ」といわれています。その理由は、シーボルトが江戸時代にヨーロッパで「日本植物誌」にて紹介^{しょうかい}して以来、だれもその実物を見たことがなかったからです。しかし、昭和34年（1959年）に六甲ケーブルの西側で再発見されました。それは、シーボルトが紹介して以来、約130年ぶりのことでした。

シチダンカは、森林植物園で栽培^{さいばい}されていて、6月中旬^{ちゅうじゆん}～下旬^{げじゆん}にかけて見ごろをむかえます。



シチダンカ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)

都賀川の水辺では、1年を通して四季折々の草花^{おりおり}を見ることができます。

春



オランダガラシ

夏



センニンソウ

秋



ミゾソバ



ツルヨシ



ジュズダマ



カワラヨモギ

六甲山地では、1年を通して四季折々の草花を見ることができます。

春

出典：神戸・六甲山系の森林 <http://www.rokkosan-shizen.jp/>



ショウジョウバカマ



アセビ

(※葉に毒があるため口に含まないよう注意してください)



ヤマザクラ



タチツボスミレ

初夏



ヤマツツジ



ヤブウツギ



ベニドウダン



コアジサイ

夏



クサアジサイ



リョウブ



ナリウツギ



アカショウマ

初秋



ゲンショウコ



ホツツジ

(※花に毒があるため口に含まないよう注意してください)



ヤマジノホトギス



ツル lindou

秋



アケボノソウ



ダイモンジソウ



シラネセンキュウ



シロヨメナ



四季折々の草花を観察してみよう！！

2-1-2. 都賀川周辺の生き物たち



六甲山地にはどんな生き物がいるのかな？

ほ乳類

六甲山地では、ニホンイノシシ、アカネズミがほぼ全域で確認されています。



ニホンイノシシ



アカネズミ



ノウサギ

イノシシがふえた最大の理由は、六甲山地の緑が回復し、どんぐりの実る木が多く育ったためといわれています。

その他の生息するほ乳類^{にゅうるい}

- ・イタチ
- ・タヌキ

- ・ニホンリス
- ・キツネ

…など

鳥

六甲山地では、130種を超える鳥類が確認されています。



カワセミ



キジバト



ツグミ

その他の生息する鳥

- ・コゲラ
- ・モズ
- ・コサギ

- ・ホトトギス
- ・ルリビタキ

- ・ヒヨドリ
- ・キセキレイ

…など

両生類

六甲山地では、ニホンヤモリ、モリアオガエル、ニホンアカガエルなどが確認されています。



ニホンヤモリ



モリアオガエル



ニホンアカガエル

昆虫

六甲山地では191科435種の昆虫が確認されています。

マップ⇒

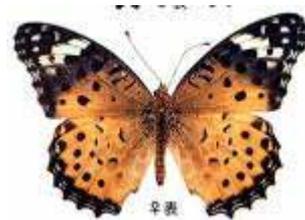
①



ムカシヤンマ



オオエソトンボ



ツマグロヒョウモン

その他の生息する昆虫

- ・セマダラコガネ
- ・ムカデ

- ・コフキコガネ
- ・ミヤマカワトンボ

- ・オトシブミ

・・・など

魚

アユ、カワムツ、オイカワ、カワヨシノボリなどが生息しています。



アユ



カワムツ



オイカワ



六甲山地には、どんな貴重な生き物がいるのかな？

六甲山地には、スミスネズミやモリアオガエル、ギュリキマイマイなどの貴重な生き物がいます。

スミスネズミ

イギリス人のリチャード・G・スミスが明治37年（1904年）に六甲山地で新種の野ネズミを発見したことから、スミスネズミと命名されました。

モリアオガエル

森に住む日本にしかないカエルです。産卵に特徴があり、水面に突き出した木の枝に白い泡に包んで卵を産みます。ふ化したオタマジャクシは、下の水面に落ちて水中で育ちます。

ギュリキマイマイ

六甲山地を代表するカタツムリの1つで、最大級のものです。特に有馬・摩耶山のものが大きく、最大で約5cmのものが確認されています。



スミスネズミ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)



モリアオガエルの卵の塊



ギュリキマイマイ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)



六甲山地の貴重な生き物をみんなで守ろう！！そのためには、どうしたらいいの？

2-1-3. 六甲山地の氷



都賀川の上流には、「アイスロード」という道があります。これは六甲山上で作られた氷が、この道を通り運ばれたためです。

明治17年（1884年）ごろ、六甲山地で氷づくりが始まりました。当時、六甲山上の池では、冬には厚い氷がはりつめました。現在、山頂付近にある30余りの池のほとんどは、氷を採るために掘られた池で、自然の池は、ゴルフ場の中にあるバンガロー池の他に2、3個あるだけです。

氷づくりは、まず池にはりつめた氷を、大きなノコギリで切り取ります。それをおがくずを敷き詰めた小屋（氷室）に2枚ずつ重ねて置いておくと、2枚がくっついて厚い氷が出来ました。春から夏にかけての間、氷が解けないよう夜中に、アイスロードを通過して下の街まで運ばれました。

当時暑い中、はっぴ姿で「カンゴリ、カンゴリ」（寒氷）と売り歩く氷屋は大人気でした。六甲山地の氷づくりは、昭和4年（1929年）に記念碑台のそばの黄楊池で行われたのが最後だといわれています。



アイスロード



黄楊池



今でも六甲山上では、昔ながらの方法で氷を保存してるんだよ！

六甲山上にある六甲ガーデンテラスでは、平成17年（2005年）の冬から「六甲山氷の祭典」が行われ、冬の風物詩となっています。この祭典で作った氷が、記念碑台の近くに設けられた氷室に運ばれ、昔ながらの方法で保存されます。

6月になると、六甲山地の山開き「グルーム祭」の時に氷室より出されます。その氷で作ったかき氷が参加者にふるまわれます。



氷室の様子



氷室からの氷出しの様子



グルーム祭会場に運ばれる氷

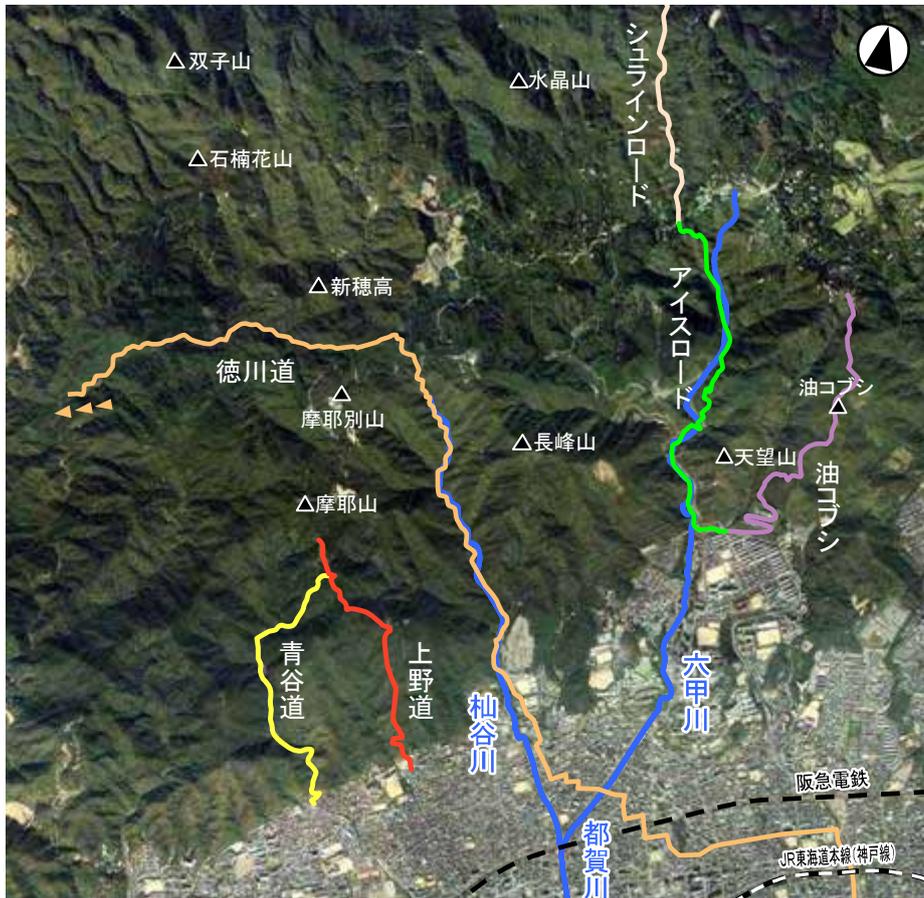


氷が運ばれた道、「アイスロード」を実際に歩いてみよう！！

2-1-4. 六甲山地の「道」(登山道・散策路)


 マップ⇒ [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#)

六甲山地には、「徳川道」「摩耶山青谷道、上野道」「油コブシ」「アイスロード、シュラインロード」などの道があります。現在も、登山道・散策路として利用されています。



徳川道



青谷道



油コブシ



徳川道は、江戸時代の終わりごろ造られた道をもとにしているんだよ！

現在の徳川道は、神戸の開港に備えて、外国人と大名行列との衝突を避けるため、西国街道の迂回路として造られた道をもとにしています（「西国往還付替道」とも呼ばれました）。

慶応3年（1867年）に着工し、約1ヶ月という短い期間で造られました。石屋川で西国街道と分かれ、護国神社から杣谷、現在の森林植物園を通り、明石の大蔵谷で西国街道と合流する約35kmの道でした。

現在、一部がハイキングコースとして整備され、徳川道と呼ばれています。



六甲山地にある道には、それぞれ由来があるんだ！
「シュラインロード」について調べてみよう！！



登山やハイキングをする時には、注意しなくちゃならないことがあるんだよ！

準備
する
もの

服装

動きやすい服装で、はきなれた運動靴や登山靴をはきましょう！

準備するもの

- ・地図（必需品）
- ・リュックサック
- ・雨具（カッパ）
- ・水
- ・おむすびやパンなどの食料
- ・あめやチョコレートなどの行動食
- ・方位磁針（コンパス）
- ・筆記用具
- ・カメラ
- ...など。



ヤマカガシ

注意
する
こと

山で火を使わない！ ゴミは持ち帰る！ 野生動物にえさをやらない！

とっていいのは写真だけ、草花などは採取しないで

観察しましょう！

マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどに出会ったら要注意！



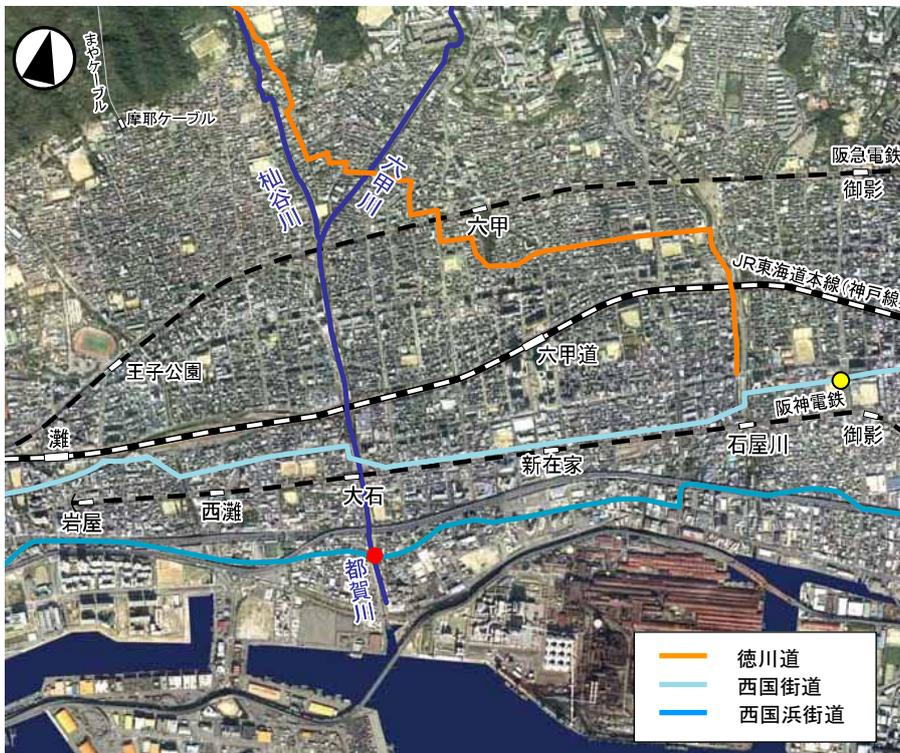
マムシ



スズメバチ



私たちの暮らす街の中には、徳川道の他にも、昔からの道があるんだよ！



● 西国街道を示す碑



● 西国浜街道を示す碑



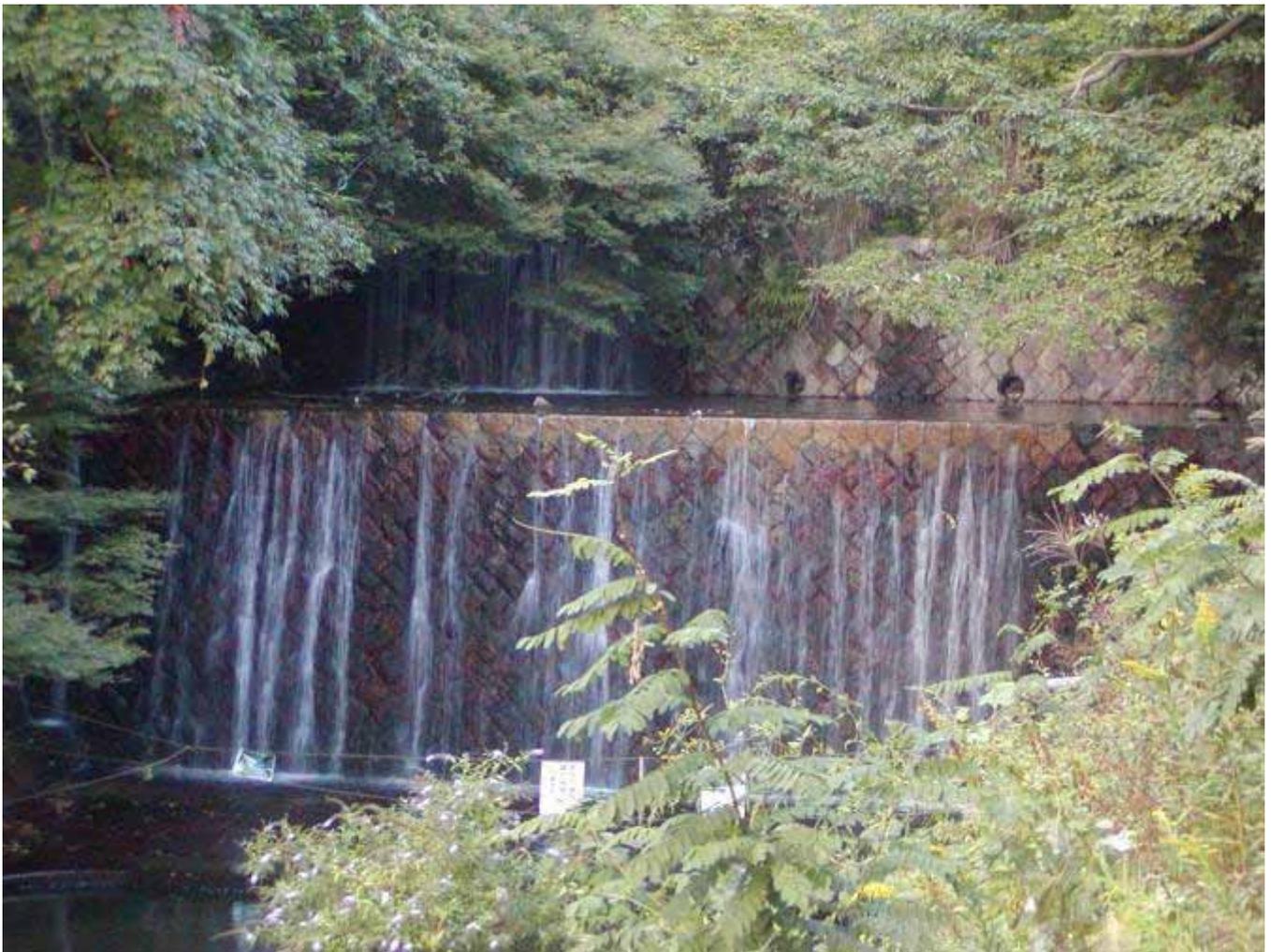
街なかにあるいろんな道を巡って、街の不思議を探してみよう！！

2-2. 私たちの街の暮らしの歴史

都賀川の名前は、現在の灘区の辺りが中世から近世にかけて「都賀庄」と呼ばれていたことに由来しているといわれています。また、下流域では大石集落を通過していることから「大石川」の名前でも親しまれています。

都賀川周辺では、豊かな自然の恵みを受け江戸時代の昔から、水車を利用した油絞り業や酒造りなどの産業が発展し、今もその面影を街中に残しています。

私たちが暮らしている都賀川周辺には、昔からの人々の暮らしや街の発展などの様子を見て・感じて・学べるものがたくさんあります。



現在の水車新田

2-2-1. 灘の産業を支えた水車



六甲川（都賀川上流）沿いの水車新田と呼ばれる地域では、六甲山地の水流を利用した水車による油作りが盛んでした。ここは、江戸時代中ごろから、油絞り業の中心的位置を占め、最盛期には25基の水車がありました。水車新田で作られた油は、都賀川沿いを通って大石浜まで牛車で運び、船で江戸へ送られました。この油は、電気やガスが普及するまで、照明用の燃料として用いられていました。

また、杉谷川（都賀川上流）沿いに五毛と呼ばれる地域があります。「五毛 = 胡麻生」とも書かれ、かつて摩耶山天上寺で使われていた明り用の油のために、この地区でゴマが作られていたと考えられます。地域内にある河内国魂神社も地名にちなんで、五毛天神とも呼ばれています。



水車新田にある大土神社は、 「水車のお宮さん」なんだよ！

水車新田にある大土神社は、寛延元年(1748年)に村と油の海上輸送の安全を願って建てられたもので、「水車のお宮さん」として知られています。

境内には、「かえる石」があり、旅行などで出かける時に撫でてお願いすると「無事かえる」といわれています。六甲山の登山者が、登山の前によく立ち寄っています。



大土神社



かえる石



「油コブシ」の名前の由来って知ってる？

水車新田から六甲山地を登る道に油コブシと呼ばれる山道がありますが、この道の名前の由来には、いくつか説があります。

その一つに、昔、灘の菜種油売りが、六甲山地を越えて有馬や丹波に行く途中、険しい道のためよく油をこぼしたことから、「油コボシ」がなまって「油コブシ」になったといわれています。



油コブシ山の山頂



灘区の歴史の花は「菜の花」なんだよ！

菜の花は灘区の歴史とゆかりが深いことから、灘区民まちづくり会議において、「菜の花」が灘区の歴史の花に決まりました。

灘区では、菜種油用の菜の花の栽培が盛んに行われていました。菜の花がたくさん咲いていたことは、与謝蕪村の俳句（40P参照）にも詠われています。

現在では、地域の人々によって都賀川沿いに菜の花を植える「菜の花のみち」づくりや、灘浜緑地で菜の花まつりが行われています。



菜の花



「菜の花のみち」づくり



菜の花まつり



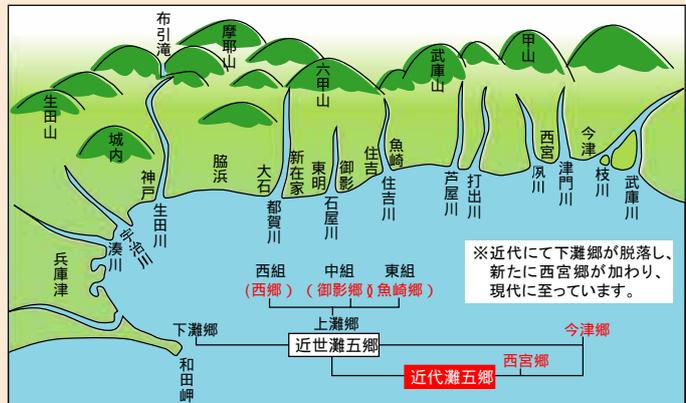
街の中にも菜の花が咲いている場所があるんだよ！見に行ってみよう！！



水車は、油絞^{しぼ}り業だけでなく、灘の酒造りも支えていたんだよ！

私たちの暮らす街は「灘五郷」と呼ばれ、日本一の酒どころとして知られています。その歴史は江戸時代までさかのぼります。

また、お酒の業界では、清酒の主産地である神戸市東側から西宮市今津に至る、大阪湾に面した海岸沿いの地帯を「灘」と呼びます。



灘五郷略図

江戸時代中期（1780年ごろ）以降、酒造り用のお米の精米には、水車が利用されました。水車によって高度に精白された白米を用いることで、灘酒の質は一段と向上し、酒米の精米には水車が不可欠となりました。

時代	水車産業の歴史（灘五郷）
江戸時代中期	<ul style="list-style-type: none"> ●1770年ごろ、菜種油の油絞りに水車を利用し始めた ↓ ●1780年ごろ、盛んになり始めた酒造りの精米にも水車を利用し始めた ↓ ●しだいに、水車産業の主力が酒造りの精米へ移っていった
明治時代 (水車産業の全盛期)	<ul style="list-style-type: none"> ●石油、電灯の普及で菜種油が使われなくなり、油絞^{すいたい}り業が衰退し始めた ↓ ●しかし、酒造りの精米は盛んであった ●菜種油の代わりに灘目^{なだもく}そうめんの粉づくりに水車が利用され始めた ●最多で80基もの水車小屋があった(住吉川)
昭和時代 、 現代	<ul style="list-style-type: none"> ●阪神大水害(昭和13年:1938年) ⇒水害での水車の流出に加え、電力による酒造りの精米が主体となり、水車は姿を消していった ●昭和54年(1979年) ⇒最後まで動いていた水車が火事で消失した ●阪神大震災(平成7年:1995年) ⇒残っていた水車小屋跡の小屋も消失



水車小屋の分布図(明治18年:1885年)



街の中に残る水車と酒造りの面影を探してみよう！！

2-2-2. 神戸の近代産業を引っ張ってきた港街



私たちの街では、かつては酒蔵^{さかぐら}や海であった場所が埋立^{うめた}てなどにより、現在の国際貿易都市神戸を支える港となっています。その中でも摩耶埠頭^{まやふとう}は、世界の物流拠点^{きよてん}として重要な埠頭になっています。

また、海沿いには、神戸製鋼所^{せいこう}に代表される工場群が広がっており、神戸、ひいては日本の工業を支える地域の1つとなっています。

このように、私たちの街は、神戸の近代産業を引っ張ってきています。



摩耶埠頭(物流拠点)



神戸製鋼所工場群



灘浜大橋は、スマートな形をしているんだよ！

灘浜大橋は、平成5年(1993年)に完成した摩耶埠頭と灘浜を結ぶ長さ400mの橋です。スマートな橋の厚さとV字脚の織りなすシルエットは、みなと神戸^{けいかん}の景観とよく調和しています。

このような形にしたのは、橋の下を船が通りやすくするためです。



灘浜大橋



灘浜大橋を見に行ってみよう！！

2-2-3. 芸術・文学の街



マップ⇒

8

9

10

17

芸術文化をこよなく愛する私たちの街には、美術館・記念館の他、文学者の^{そくせき}足跡が数多くあります。ゆったりと街を^{さんさく}散策し、芸術と文学を味わってみましょう。

	神戸文学館	県立美術館 「原田の森ギャラリー」	王子公園内 「旧ハンター住宅」
写真			
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後に「文化創生都市推進プラン」の1つとして、平成18年（2006年）に開設。旧関西学院のチャペルを利用。 ・小泉八雲^{こいずみやくも}や谷崎潤一郎^{たにざきじゆんいちろう}などの神戸縁^{ゆかり}の文化人の原稿や縁の品々を展示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は旧兵庫県立美術館を利用。 ・現在は、兵庫県立美術館の分館となり、美術団体の活動や交流の場として利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和38年（1963年）に北野町異人館街から王子公園内に移される。 ・神戸に残る異人館として最大規模の1つ。（国指定重要文化財）
備考	開館時間：10時～18時（平日） 9時～17時（土日・祝日） 休館日：水曜日 12月28日～1月4日	開館時間：10時～17時 休館日：月曜日	館内の公開は、4月・8月・10月に限定 開館時間：3月～10月：9時～17時 11月～2月：9時～16時30分 休館日：水曜日 12月29日～1月1日

注意）閉館時間など変わっている場合がありますので、直接確かめてください（平成25年（2013年）3月時点）

江戸時代の有名な俳人で画家の与謝蕪村^{よ さ ぶ ん}は、しばしば私たちの街を訪れていました。



まや 摩耶山天上寺には、与謝蕪村の句が残っているんだよ！

摩耶山は^{はいく}俳句の山として知られ、天上寺ではたびたび俳句の会が催^{もよお}され、多くの句が詠まれています。

与謝蕪村もまた、菜の花^{かん}に関する俳句を残しています。

「菜の花や月は東に日は西に」「菜の花や摩耶を下れば日のくるゝ(る)」



与謝蕪村の句



天上寺にある与謝蕪村の句を見に行ってみよう！！

2-2-4. 街の歴史を語る様々な「あかし」



マップ⇒ 11 12 13 15 16 3 4



私たちの街には、街の歴史を物語る「あかし」が、数多くあるんだよ！
都賀川沿いを散策すると、タイムトラベルができるんだよ！

あなたの知っている場所に を付けましょう。

遺跡・寺社など	① おおつち 大土神社	② かわちのくにたま 河内国魂神社 ごもろ (五毛天神)	③ おにつか 鬼塚【古墳】 しょうこうじ (照光寺)	④ すさのお 素佐男神社
チェック				
遺跡・寺社など	⑤ ふなでら 船寺神社	⑥ みぬめ 敏馬神社	⑦ なだ 灘のタカバシ	⑧ もとめづか 西求女塚古墳 (求女塚西公園)
チェック				
歴史を物語るあかし	⑨ かみまえ 神前の大クス (春日神社)	⑩ 沢の鶴資料館	⑪ 背中合わせの地藏 (阪急電鉄北側)	⑫ 背中合わせの地藏 (阪急電鉄南側)
チェック				

これらは「灘百選」の一部です。「灘百選」とは、灘区の魅力を再発見して紹介しようとの思いから、区民からの募集をもとに100の魅力資源を選んだものです。



灘区役所「灘百選」のホームページで、その他の資源も調べてみよう！！
<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/nada/miryoku/hyakusen/100sen.html>

こうした街の「遺跡・遺構・寺社など」が残っているのには、当時の人々の「願い」や「いわれ」などが背景にあり、後の時代に伝えようとした思いがあります。



「灘のタカバシ」って知ってる？ 灘の歴史を物語る橋なんだよ！

灘駅の東、JRをまたぐ大きな陸橋は「灘のタカバシ」と呼ばれていますが、実際のタカバシは、その隣にあります。明治40年（1907年）、旧灘駅（現東灘貨物駅）から神戸港まで鉄道がひかれ、その上かけられた小さな橋が元々の「灘のタカバシ」です。この鉄道は神戸製鋼所の運搬に活躍しました。



灘のタカバシ

この橋が架けられた当時は周辺に高い建物もなく、その名の通り「高い橋 = タカバシ」の愛称で親しまれていました。震災によって再建され、レンガ造りの風情はなくなりましたが、今も地域をつなぐかけ橋となっています。



西求女塚古墳は、東灘区の2つの古墳と深い関係があるんだよ！

灘区（西求女塚古墳）と東灘区（処女塚古墳、東求女塚古墳）の3つの古墳が、よく似た名前なのは、この3つが深い関わりを持っているからです。

3つの古墳は、処女塚を中心に東西それぞれ約2キロメートルの地点に、東西の求女塚があり、それぞれが処女塚の方向を向いている形になります。そのためか、これらの古墳にまつわる悲しい恋の物語（処女塚伝説）が古くから伝えられています。



古墳の位置

悲しい恋の物語

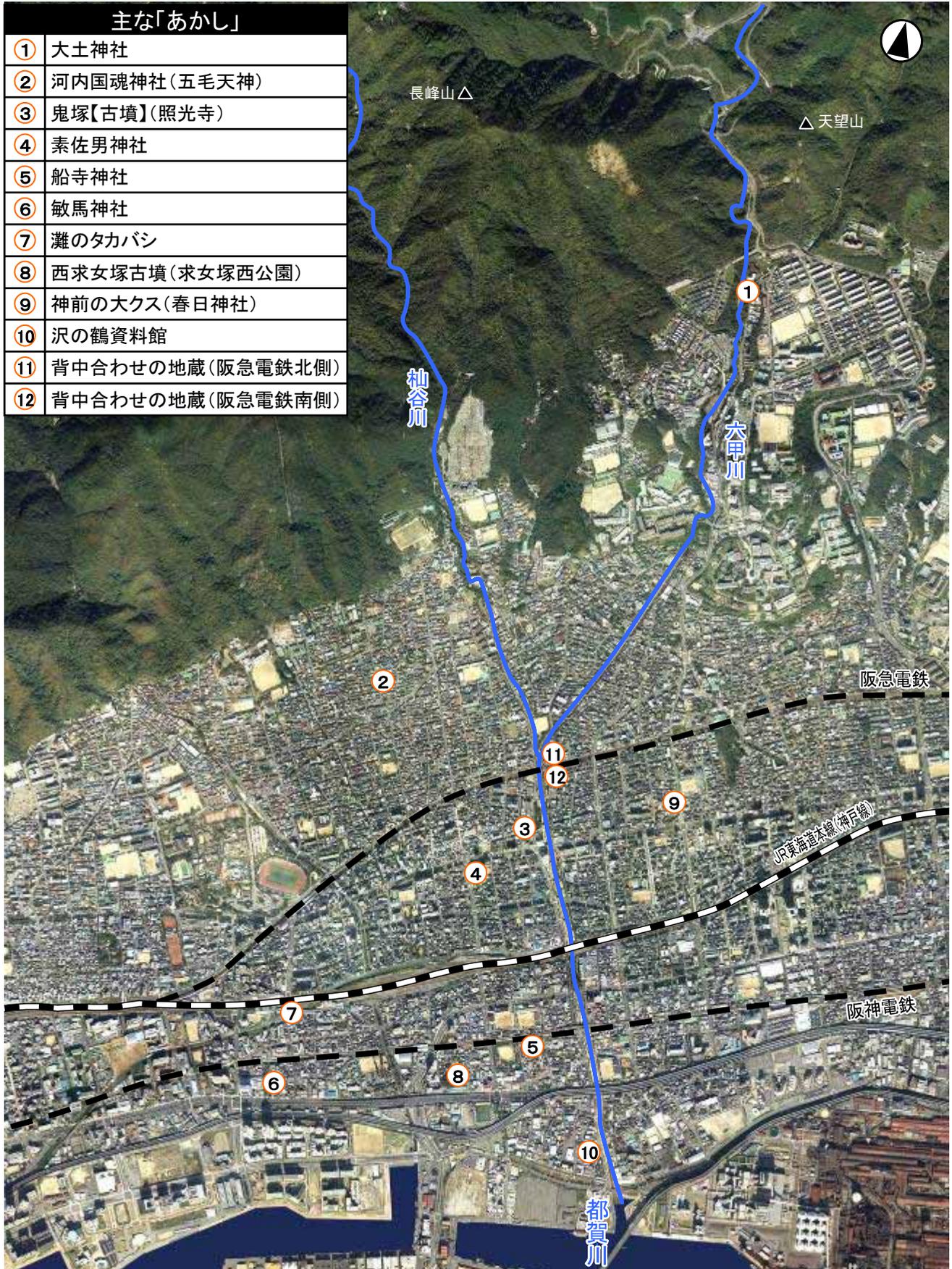
～この地に美しい乙女が住んでおり、多くの求婚者がいましたが、特に熱心だった2人が武器を持っての争いとなり、乙女は立派な若者を自分のために争わせたことをなげいて死んでしまいます。2人の若者もそれぞれ後を追って死んでしまい、それをあわれに思った人たちが、後々に語り伝えるために3人の塚を築きました。～

この物語については奈良時代の万葉集に登場する歌人たちも歌に詠んでいることから、かなり古くからある物語だったようです。

平安時代の『大和物語』には、2人の若者が生田川の水鳥を弓矢で射て乙女を争うストーリーとして書かれ、また森鷗外の『生田川』などにも取り上げられています。

また、大和物語にちなんで、生田川沿いに、「大和物語 処女塚伝承之地」が建てられています。

◆主な「あかし」位置図



2-3. 私たちの街の祭りや地域の活動

私たちの街は、だんじりをはじめとした伝統文化の生きづく街としての顔、臨海^{りんかい}工業地帯としての街の顔など、様々な街の顔を持っています。

また、この街を流れる都賀川は、私たちの生活に身近であり、憩いの場所となっています。

私たちの街では、都賀川や六甲山地などの自然、さらに伝統文化を守り・伝え・育てていく様々な活動が行なわれています。



灘のだんじり祭り

2-3-1. 人びとが集う灘の祭り



都賀川沿いには多くのお祭りや催し^{もよお}があります。特に、だんじり祭りは、灘の名物ともなっています。また、「なだ桜まつり」や「六甲ファミリーまつり」など、変化に富んだ祭りが楽しめます。

灘のだんじり祭り

阪神・淡路大震災後に始まった祭りで、毎年5月の第3日曜日に行われます。灘区内6地区（五毛、上野、篠原、八幡、都賀、畑原）のだんじりが集まり、威勢よく鐘や太鼓^{いせいかね}を打ち鳴らしながら練り歩くさまは見ものです。

なお、各地区における神社でのお祭りは、春と秋に別れて行われています。

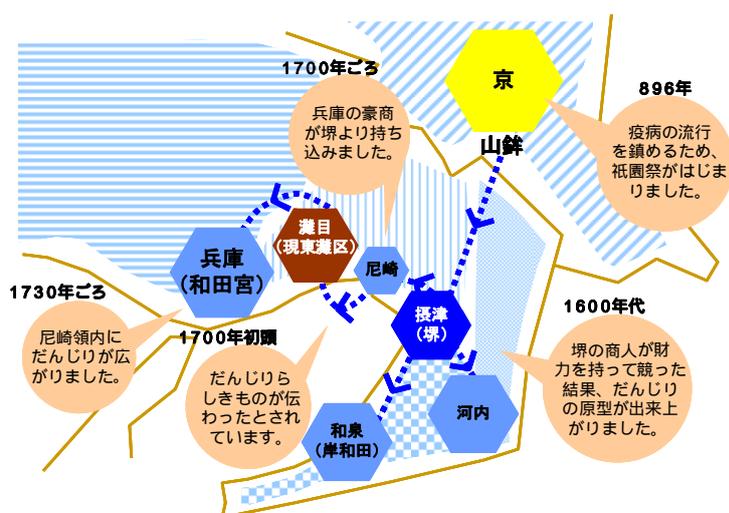


だんじり祭りの様子



だんじりは、何を願うお祭りなの？

だんじりは、都市では流行する病気が治まるのを願い、農村では収穫の感謝を表す祭りとして広がりました。神戸にだんじりが登場するのは、江戸時代中期の享保年間^{きょうほう}（1716～1736年）ごろといわれています。



だんじりの広がり

現在の県境

やましろ

山城国

いずみ

和泉国

かわち

河内国

せつつ

摂津国

はりま

播磨国

やましろ
※山城国などは昔の国名です。



だんじり祭りを見に行ってみよう！

なだ桜まつり・灘ふれあい秋まつり

「なだ桜まつり」は、毎年4月上旬の桜の季節じょうしゅんに都賀川公園で行われる区民手づくりのお祭りです。

また、同じ場所で秋には「灘ふれあい秋まつり」が開かれます。区内の各種団体が参加し、毎年多くの人でにぎわいます。

ステージや模擬店、バザーやガーデニング教室などがあり、一日中楽しめます。



なだ桜まつり



灘ふれあい秋まつり

船寺神社の獅子舞

船寺神社では、毎年11月2・3日に太鼓と横笛はやしのお囃子はやしによって獅子舞が行われます。

平成13年（2001年）に市の無形民俗文化財に登録され、地域に根づいた伝統芸能として、「なだ桜まつり」をはじめ、区内の行事でも披露ひろうされています。



船寺神社の獅子舞

六甲ファミリーまつり

灘区民による住民のためのお祭りで、昼と夜のステージと催しで構成され、家族みんなで楽しめます。港神戸を象徴する祭りとなっている「神戸まつり」と合わせて、毎年5月に開かれ、多くの方が参加してにぎわいます。



六甲ファミリーまつり

2-3-2. 「都賀川」での活動



灘区を中心を流れる都賀川は、都市の川には珍しく川遊びができ、天然のアユも遡上する川として有名です。夏の間は子どもたちの絶好の遊び場となる他、川の脇に設けられた遊歩道は、散歩路として地域の人々に親しまれています。



都賀川で水と親しむ



都賀川での憩い



「都賀川を守ろう会」って、何をするの？

都賀川の美化活動や親水活動など様々なことを行っています。



クリーン作戦



川開き



子どもフォーラム



水と水鉄砲教室(水の教室)



アユの稚魚の放流



うなぎ・金魚・鯉のつかみ取り大会



家族や友達と参加してみよう！！

2-3-3. 様々なまちづくり活動



私たちの街には、どんなまちづくり活動があるのかな？

各団体のHP

KOBE子どもエコクラブ

子どもたちが地域の中で行う環境学習活動や環境保全活動を応援する仕組みです。子どもたちのグループに大人が1人以上加わっていれば、誰でも活動することができます。

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/education/ecoclub.html>



六甲山の自然を学ぼう会

六甲山やその周辺の地域の環境保全に関する事業を行い、自然を大切にすることを育て、豊かな環境の保全を目的に活動しています。

<http://www.rokkosan-shizen.com/>



ドングリネット神戸

街の緑をふやすために、子どもからお年寄りまでの市民ひとりひとりが積極的に、楽しみながら参加できるしくみとして「ドングリ銀行神戸」を開いています。ドングリを拾って預けたり、苗木を育てたりして、街の緑づくりに参加できます。

<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/gallery/donguri/intro.html>



各団体のHP

六甲山自然案内人の会

六甲山^{およ}及び周辺の地域で、定期的な自然観察会の他、六甲山ガイドハウス（六甲山自然保護センター分館）に常駐し、土・日・祝日に山の案内人として、ボランティアガイドを行っています。

<http://www.rokkosan.gotohp.jp/>



兵庫県立 人と自然の博物館

貴重な資料標本と研究を通して、自然・環境^{かん}に関する生涯^{しやうがい}学習に役立つ「人と自然の共生博物館」をめざし、積極的な活動を行っています。

<http://www.nat-museum.sanda.hyogo.jp/>



六甲山を活用する会

六甲山魅力再発見市民セミナーを開くなど、六甲山自然保護センター（周辺施設）を中心に、六甲山についての情報を広める活動を行っています。

<http://www.rokkosan-katsuyo.com/>



（平成25年（2013年）3月時点）



みんなで、まちづくりの活動に参加してみよう！！